

# 餅は餅屋

横井快太（千葉県弁護士会）

2000年11月1日、日弁連は臨時総会で、「臨時総会・法曹人口、法曹養成制度並びに審議会への要望に関する決議」を行いました。

[https://www.nichibenren.or.jp/activity/document/assembly\\_resolution/year/2000/2000\\_4.html](https://www.nichibenren.or.jp/activity/document/assembly_resolution/year/2000/2000_4.html)

当時、私は民事裁判修習中で、こんな臨時総会が行われていることなど全く知りませんでした。改めて読んでみようとしたのですが、何と云うか、恥ずかしくてまともに読むのが苦痛になるような内容です。何しろ、17年後の現在、司法制度改革の結果どうなったかということは分かっているのです。

年間司法試験合格者は、3000人に達する前に頭打ちとなって減少に転じましたが、増加の大部分は弁護士となり、深刻な就職難、弁護士過剰による所得、待遇の低下を招きました。法的需要は増えず、法曹の不人気傾向は適性試験受験者数の激減から顕著となり、予想通り予備試験合格者の後塵を拝することになった法科大学院制度は破綻を取り繕おうと、学生そっちのけで関係者のみ在必死になっています。キャリア裁判官制度は温存され、法曹一元制など、かなり昔から耳にすることすら無くなりました。

私は、当時司法修習生でしたから、「こんな馬鹿げたものに賛成した覚えはない」と自信をもって言えるのですが、当時自分が弁護士になっていたとすれば、これに賛成したのだろうかと考えると、やはり賛成はしなかったはずだとそれなりの自信をもって言えます。

大学4年生の時、司法試験予備校の授業を受けた時の衝撃は今でも忘れません。伝えたいことを的確に伝える技術、受講者を引き付ける熱意はまさにプロの為せる業だと感動すら覚えました。また、司法試験の出題傾向を加味した上で、重要度にメリハリをつけて教えてくれるのですが、プロとしての責任と覚悟を感じ、講師を全面的に信頼していいのではないかと思わせてくれました。私は、それまで予備校や学習塾に通ったことがなかったのですが、大学受験予備校のカリスマ講師というのもきっとこんな感じなんだろうと思い、軽く人生を後悔したほどです。翻って大学ではどうだったかというと、少数の例外を除き、ほとんどが学生に伝える、理解させる、考えさせる、興味を持たせるといったことを放棄したかのような講義でした。ですから、そんな大学を拠点とした法科大学院構想で、2年ないし3年で大多数の学生を司法試験合格水準にもって来るなどできるはずがないと実体験から自信をもって言えたはずなのです。

大学教授は研究のプロではあると思いますが、教えることのプロと言える方はごく少数で、少なくとも司法試験の出題傾向の分析など本来業務ではありません。餅は餅屋と言いますが、大学ができもしないことに出しゃばらずに、予備校と役割分担をしておけばよか

ったのだと思います。

なお、臨時総会で馬鹿げた決議がなされた原動力が、前回は触れたとおり東京、大阪の派閥の（委任状）集票力にあったことは言うまでもなく、この間激変した弁護士業界をよそに、派閥をバックにした執行部やりたい放題の現状だけは17年後の今も変わっていません。このことはまた機会があれば書いてみたいと思います。